

## 茶の湯 (ちやのゆ)



写真出典：平成 28 年度版『わたしたちのまち堺』P192 堺市教育委員会

茶の湯とは、本来、抹茶(まっちゃ)を飲み楽しむことです。この抹茶を飲み楽しむために、日本では、「茶の湯」に関わるさまざまな生活文化が発達しました。

お茶を飲むという行為(こうい)は、世界中で行われています。日本茶、中国茶、紅茶、チャイなど、飲み方も味わい方も製法もいろいろです。世界の多くのお茶は、飲み方や入れ方を中心に発展し、広がりを見せてきました。しかし、日本は、武道、書道、華道と同様に、「茶道」(さどう)という「道」として独特の発展を見せているのが特徴です。

### Q. だれがはじめたの？

A. 珠光(じゅこう)がはじめたわび茶[出典：茶の湯からCHA文化へ [http://cha.sakai.ed.jp/tya/about\\_tya.html](http://cha.sakai.ed.jp/tya/about_tya.html)]が、千利休(せんのりきゅう)によって、今の茶の湯の形になり今日まで引き継(つ)がれているよ。

### Q. 千利休(せんのりきゅう)ってだれ？

A. 1522年、堺の商人の家に生まれた茶人だよ。10代のころ堺の有名な茶人である武野紹鷗(たけのじょうおう)に茶の湯を学んだんだよ。利休は紹鷗(じょうおう)のわび茶をさらに求め、茶の湯の作法をさらに簡単にし、「わび・さび」「一期一会(いちごいちえ)」などの言葉で伝えられる日本独自のわび茶をつくったんだよ。

### Q. 千利休(せんのりきゅう)って政治にも関係しているの？

A. 利休は織田信長(おだのぶなが)の茶頭(さどう)[お茶の世話役]として活躍し、信長の死後には豊臣秀吉(とよとみひでよし)の側近(そっきん)として発言力をもったんだよ。でも秀吉の怒りにふれて切腹(せっぽく)したといわれているよ。

**Q. 茶の湯って今でも体験できるの？**

A. 堺市立の小中学校では、堺・スタンダードの一つとして、茶の湯体験がおこなわれているよ。茶の湯体験を通して、日本の伝統文化を知るとともに、茶道(さどう)において大切にされている「おもてなしの心」や人とのかかわり方を学び、豊かな心をはぐくんでいるんだよ。

出典:ホームページ「茶の湯からCHA文化へ」堺市教育委員会 [2012/8/15 現在]

[http://cha.sakai.ed.jp/tya/about\\_tya.html](http://cha.sakai.ed.jp/tya/about_tya.html)

1. \*谷端昭夫『よくわかる茶道の歴史』2007年 淡交社
2. \*[http://www.omotesenke.jp/chanoyu/nenpyo/nenpyou\\_el\\_i.html](http://www.omotesenke.jp/chanoyu/nenpyo/nenpyou_el_i.html)
3. \*神津朝夫『千利休の「わび」とはなにか』角川書店
4. \*熊倉功夫『茶の湯の歴史千利休まで』1990年 朝日新聞社
5. \*永島福太郎『茶道文化論集』1982年 淡交社
6. \*成川武夫『千利休 茶の美学』1983年 玉川大学出版部
7. \*亀井高孝・三上次男・林健太郎・堀米庸三編『世界史年表・地図』2007年13版 吉川弘文館
8. \*児玉幸多編『日本史年表・地図』2007年13版 吉川弘文館
9. \*村井康彦『茶の文化史』1979年 岩波書店
10. \*NPO法人「和の学校」[http://www.wanogakkou.com/culture/010000/010100\\_motto.html](http://www.wanogakkou.com/culture/010000/010100_motto.html)